

9月月例労働経済報告のポイント

一般経済

- 景気は、失業率が過去最高水準となるなど厳しい状況にあるものの、このところ持ち直しの動きがみられる。
 - ・ 輸出、生産は、持ち直している。
 - ・ 企業収益は、大幅な減少が続いているが、そのテンポは緩やかになっている。設備投資は、減少している。
 - ・ 雇用情勢は、一段と厳しさを増している。
 - ・ 個人消費は、このところ持ち直しの動きがみられる。

- 先行きについては、当面、雇用情勢が悪化するなかで、厳しい状況が続くとみられるものの、在庫調整の一巡や経済対策の効果に加え、対外経済環境の改善により、景気は持ち直しに向かうことが期待される。一方、生産活動が極めて低い水準にあることなどから、雇用情勢の一層の悪化が懸念される。加えて、世界的な金融危機の影響や世界景気の下振れ懸念など、景気を下押しするリスクが存在することに留意する必要がある。

労働経済

- 労働経済面をみると、雇用情勢は、一段と厳しさを増している。
 - ・ 7月の完全失業率（季節調整値）は5.7%で、6ヶ月連続で前月差で上昇（0.3ポイント上昇）。
 - ・ 労働力人口（原数値）は6,628万人で、5ヶ月連続で前年同月差で減少（34万人減）。
 - ・ 就業者数（原数値）は6,270万人で、18ヶ月連続で前年同月差で減少（136万人減）。
 - ・ 雇用者数（原数値）は5,444万人で、5ヶ月連続で前年同月差で減少（80万人減）。
 - ・ 有効求人倍率（季節調整値）は、0.42倍（前月差0.01ポイント低下）。
 - ・ 新規求人倍率（季節調整値）は、0.77倍（前月差0.01ポイント上昇）。
 - ・ 現金給与総額（原数値・速報）は365,922円で、前年同月比4.8%減。